

衣のNGO



NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会

千葉市中央区都町3-14-10

TEL/FAX 043-234-1206

E-mail jfsa@f3.dion.ne.jp

URL <https://jfsa.jpn.org>

◆◇JFSA ホームページ

Facebook ページもごらんください◆◇



JFSA HP



JFSA facebook

会報 57号 2022年1月

HAMDARD COLLEGE OF MEDICINE & DENTISTRY



■アル・カイルアカデミーから 医師を目指す

ブシュラさん（左写真）の家族は、アル・カイルアカデミー本校のすぐ後ろに隣接するスラム地域に住んでいます。彼女は両親と8人の姉妹、1人の兄弟と共に3つの部屋とキッチンのある、小さな家に暮らしています。父親の生業は鳥の販売で家の近くに店があります。彼女は絵を描くことや縫い物が得意で、そして学業に秀でています。彼女の夢は医者になることです。母親はいつも彼女が勉強をするためにできる限り快適な環境を作ろうと努めてきましたが、家が狭いため、ブシュラさんはかなり苦勞をしなければなりません。彼女は勉強するために家族の集まりに参加せず、家の手伝いをやめ、時には蠟燭で勉強することもありました。それにもかかわらず、彼女は将来を見据えて前向きな姿勢で努力を続け、医師を志し大学へ進学しました。彼女は夢に向けて新たな旅を始めようとしています。そして彼女の夢が実現すれば、アル・カイルアカデミーから初めての医師が誕生することになります。

※アル・カイルアカデミーでは、カレッジから大学に進学する際、家庭の事情のある生徒に対しては給付型の奨学金で支援しています。

【アル・カイル

医療センターについて】

前回の会報では、イクバル医師へのインタビューを予告しておりましたが、より現場の様子を理解するため、病院の運営管理もされているジャミール・カーン医師に様子を伺いました。ジャミール・カーン氏は医師として一般外科と病院管理で35年の経験があり、昨年、政府の大きな病院の医療監督のポストから引退しました。現在は週6日、アル・カイル医療センターに勤務しています。

(Q)あなたがアル・カイル医療センターで医師としてまた病院の管理者として仕事をすることになった経緯をお聞かせください。

(A)アル・アカデミーのムザヒル校長の幼馴染であるイクバル医師は、私の旧友でもあります。私が前職を引退したとき、イクバル医師からアル・カイル医療センターの開設にあたり、この医療センターの運営に携わるよう依頼を受けました。元々、引退後は福祉の仕事に従事することに興味があり、この仕事はスラム地域に住む多くの人を助ける絶好の機会だと思いました。

(Q)パキスタンにおいて医療分野はどのような状況なのでしょうか？

(A)パキスタンの人口における病床数の比率は非常に低いです(補足: 2009年のWHOのデータでは、1000人あたりの病床数日本13・7、パキスタン0・6)。政府だけではこのギャップを埋めることはできません。

NGOは、パキスタンの膨大な人口の医療問題に対処するために重要な役割を果たしています。しかし将来的には医療保険がパキスタンの貧困層のために政府によって提供されるべきです。NGOだけでは全人口をカバーできるわけではないからです。

また我が国の医療の現場における問題の一つは、上流階級と中流階級に属する多くの医学生が勉強した後、国を去ることです。または結婚して医療現場での仕事を続けない人もいます。多くのパキスタン人医師が海外の医師免許試験を受け、主に米国、アラブ首長国連邦、サウジアラビアで仕事をしているのです。

(Q)アル・カイルのカレッジの学生へインタビューすると、女子は特に将来医師になりたいと考えている学生が多いと感じます。

(A)現在アル・カイルカレッジを卒業した女子学生は、医科大学に進学し、MBS(Bachelor of Medicine, Bachelor of Surgery)やPharm Doctor of Pharmacy)という学位を取得しようとしています。アル・カイルは彼女たちが医師になるという情熱を継続し、学び続けるために奨学金を提供しています。

(Q)アル・カイル医療センターはスラム地域にあります。このような地域では病気の原因としてどのような事があるのでしょうか？

(A)スラム地域の住民は、不適切な食事、劣悪な衛生状態、質の悪い飲料水のために、他の地域の住民と比べ多くの病気にかかります。そしてこのような食事や衛生管理に対する意識の低さが、貧しい地域や、隣接するパロチスタン州における主な問題です。

(Q)医療センターの開設から、あなたたちは様々な手術も行なってきました。具体的にどのような手術を行なっていますか？

(A)これまで52の手術が当センターで行なわれました。通常、手術を受けているのは耳鼻咽喉科および一般外科の患者です。当センターにはダウ大学の耳鼻咽喉科、頭頸部外科、一般外科、そして腹腔鏡外科の医師がいます。具体的には扁桃摘出、粘膜下切除、甲状腺を含む頸部腫瘍の切除、腹腔鏡下胆嚢

摘出、あらゆる種類のヘルニアの修復、陰嚢水腫、そして割礼、皮脂嚢胞、脂肪腫などの軽度の処置を日常的に行っています。

(Q)パキスタンでは、出産に伴う合併症が原因で多くの女性が命を落としていると聞きます。あなたの医療センターには婦人科もあるのでしょうか？

(A)現在、妊婦には他の病院を紹介しています。将来的には、当センターで出産も行なえるようにする予定ですが、そのためには多くのスペースと資金が必要となります。他の一般的な病気の女性は、女性看護師の助けを借りてこのセンターの医師が治療しています。



インタビューする学校スタッフ(左)・ジャミール医師(右)

【アル・カイルアカデミーの近況】

昨年9月の会報のインタビューの時点では、50%の分散登校が行なわれていました。その後の学校の様子についてムザヒル校長に伺いました。

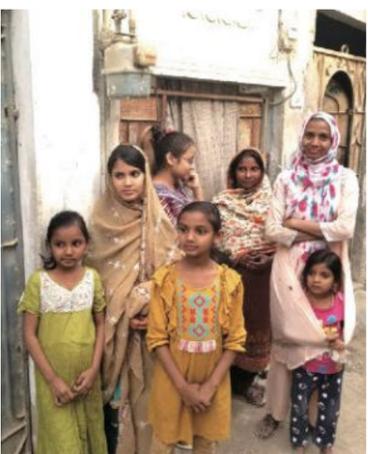
(ムザヒル校長先日は政府と連携し、12歳以上の生徒へのワクチン接種を学校で行ないました。新型コロナウイルスの感染状況は大分落ち着いていると感じています。

学校は、昨年8月末に授業が再開された頃は分散登校が義務付けられ、また一部の生徒は家庭の事情などで学校を離れていました。JFSAの皆さんからも学校の運営について心配していただきましたが、今はほぼ全校生徒が学校に戻っており、全体はコロナ禍以前の平常時と変わらない形で運営しています。

(Q)最近では、何か学校で変化はありましたか？

(ムザヒル校長学校では日々新たな変化があります。

最近では、第5分校の校舎が政府によって修復されました。元々20年前程までこの学校は政府が運営していたのですが、きちんとした管理がなされず廃校状態になっていました。このような廃校状態の公立学校はシンド州だけでも数千校あります。こうした公立学校をNGOに無償で貸与する制度を使い、アル・カイルアカデミー第5分校は2015年に開校しました。今回は政府が予算化し、修復工事を行なわれてとても綺麗になりました。将来的にはアル・カイルとしてこの第5分校のそばに別の校舎を建設して、マトリック(10年生)まで学べるようにしたいと考えています。(今は初等教育の5年生まで)



本校に隣接するスラム地域で暮らす家族



学校でのワクチン接種の様子



きれいになった第5分校



カレッジに作った講堂

また、カレッジに講堂を作りました。先日はこの講堂で、他のNGOとのコラボ企画として大学受験のための志望動機の伝え方について学ぶワークショップを行ないました。

第19回定期総会報告

2021年11月24日(水)に第19回定期総会を、会場参加とオンライン参加で行ないました。出席総数は99名(本人出席22名、委任状出席42名、書面議決書35名)で、議案(左の5つ)はすべて承認されました。

- 1、事業・活動報告
- 2、決算報告・監査報告
- 3、2021年度活動方針案・予算案
- 4、役員選出に関する件
- 5、定款の変更に関する件

2020年度の活動の概要

(2020年10月～2021年9月)
 ●回収とアル・カイル事業グループ(以下AKBG)への送り出し
 回収量は135.9トンで前年度より13.7トン増えました。参加人数は約1万9千人になりました。会員・支援メンバーの方からは延べ1943人(約15トン)の参加がありました。

回収期間	回収量(kg)	参加人数(人)
2020年10～12月	51,051.2	7,124
2021年1～5月	38,003.2	5,285
2021年6～9月	46,853.0	6,529
合計	135,907.5	18,938

AKBGには4回の送り出しを行い、輸出货量は合計98トンで昨年度より約5トン増えました。しかし、世界的に海上輸送用のコンテナ不足が続いて海上運賃が高騰し、AKBGの利益は減少する結果となりました。

●AKBGとの事業連帯の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援
 コロナ禍により、パキスタン派遣は実行できませんでしたが、日常的に情報交換を行ない、互いに状況を確認しやすめました。

パキスタンからの輸入古着の販売は、柏店で注文、管理していましたが、千葉店でも取り組みました。経費は予算より72%増えましたが、全体の売上は目標を約80%上回りました。

	JFSA コンテナ積み込み	AKBG 受渡し・倉庫着	送り出し量(kg)
第71回	2021年1月19日	2021年3月19日	23,549
第72回	2021年3月31日	2021年5月11日	24,403
第73回	2021年6月8日	2021年8月11日	24,835
第74回	2021年8月10日	2021年10月16日	25,198
合計			97,985

●国内事業
 ①センター業務
 ・千葉センター 効率的な作業体制を組むために、スタッフ間の情報共有をすすめました。選別や軒先市などを団体の協力で行ないました。

・東葛センター 什器を活用し回収や輸入に対応した作業環境を作り直した。選別協力団体は状況に応じて受け入れました。

②ショップ販売
 ・千葉店 CHRRKHA BAZAAR (チャルカバザール)

インスタグラムの活用などで若年層の利用が増え、来店者数全体も3割近く伸びて、売上目標を達成できました。
 ・柏店 Home (カブレ)

季節に合わせた店舗内容変化を明確にし、それを基に指図書を作成しました。広報にSNSの動画を活用しました。

・街商販売(フリーマーケットなど) 緊急事態宣言で開催が見送られることが度重なり、出店会場が減ってしまい予算を大きく下回りました。

・販売協力団体 3団体とも購入者層に見合った品揃えを行ない、2団体では回収への協力も呼びかけました。
 ・市民活動と連動した企画 コロナ禍により、協力団体のイベントも主催企画も一部を除きできませんでした。

●広報活動と会員の参加
 会報3回、回収案内3回を発行し、フェイスブックで発信を増やしました。会員は継続する方、新規の方が増え、個人1423人と18団体の皆さんが活動を支援しました。ボランティア参加は状況によって呼びかけできませんでした。オンライン報告会は協力団体の企画で実施できましたが、独自の企画は準備できませんでした。

●研修
 実施にはいたりませんでした。

●多様な団体との交流
 団体会員はじめ協力団体などから回収やコンテナ送り出し、オンライン報告会などに協力をいただきました。

●アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わる人々との交流
 招日交流はコロナ禍で行なうことができませんでしたが、SNSで情報共有を行ないました。総会、協力団体企画でオンライン交流を実施しました。

●危機管理の充実
 新型コロナウイルス感染症予防対策を定めて実施しました。

●JFSA事業の自主管理について
 事務局、スタッフの就業規則の見直しにとりかかりました。

オンライン交流会から、ファアド・カーンさん(写真)は、アル・カイルアカデミーを卒業してアル・カイルアカデミーのカレッジに進学しました。カレッジの学長から推薦を受けて大学に入りコンピュータサイエンスを学びました。今は就職して2年がたちます。「進学できて会社に就職した子どもたちは、自分の暮らしだけでなく、家族や親戚の人たちを支える存在としても期待されます。皆、きびしい暮らしをしていますから。」とムザヒル校長は言います。

「私は幼稚園クラスから通い始めました。たくさん学びました。驚くべき経験でした。いちばんよかったのは無料で通えたことです。アル・カイルアカデミーは地域の私立学校と比べても教育水準が高いです。今も私の中では、アル・カイルアカデミーは大きな存在になっています。」



アル・カイルアカデミー卒業生
ファアドさん

「大学に入学してから毎日、夜11時から朝8時までサダル(商業地区)で働きました。そのあと直接に大学に行くと、午後3時に家に帰って寝ました。」

ファアドさんへのインタビュー動画をこちらからご覧ください



監査報告書

私たち監事は2020年度(2020年10月1日～2021年9月30日)の当会の事業と活動および決算と会計諸表について11月8日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会の決定に基づいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2020年度は、古着類の回収実績は年度計画の120トンの計画に対し135.9トンの実績で過去最高の回収量でした。「環境への意識変化」や「外出控えからの家庭内での衣類整理」等が進んだことが回収量UPに影響したと考えられます。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策のため計画していたイベントでの回収はほとんどできず、回収の多くは協力団体によるものです。コロナ禍での「協力団体の情宣・広報活動」が成果につながりました。また、参加者はのべ4,099名増加し、この間の減少傾向に歯止めがかかりました。コロナ禍でも安定して多くの方に協力いただけるようポストコロナでの広報手段、参加方法の構築をさらに進めていくことが大切です。

4回の輸出は計画どおり行なうことが出来ました。送り出しの量は98トンとなり計画していた94トンを大きくこえました。これまで6年連続で未達成となっていた回収についても歯止めがかかりました。コロナ禍における広報、回収手段をさらにブラッシュアップし回収量、参加人数の増加、計画を達成できるように取り組んでいただきたいと思います。販売事業ではコロナ禍でありましたが来店数が3割近く増加し、売り上げ目標を達成することができました。Instagram、LINE等を活用した情報発信、広報が成果をあげています。これからも継続して利用いただけるアイテムの拡充や新たな客層の来店増につながる仕組みづくり(迅速な更新等含む)にさらに取り組んでいただきたいと思います。

事業全体では7期連続黒字を達成することが出来たことは大いに評価されるべきだと思います。また、コロナ禍においてJFSAの活動に共感いただく方も多く、個人の会員、支援メンバーはともに増加しました。会員・支援メンバーの増加は活動支援の輪の広がりでもあります。今後も会員増を目指す広報の取り組みを積極的に行うことをさらに期待します。

ホームページにはFacebookを掲載し情報発信をおこないました。回収、販売、イベント等の案内を中心に情報発信しました。定期的な更新もなされ活動内容の発信はされていますが、まだ研究の余地が残されていると思います。リアルに集まるのが難しい状況の中でもネットやオンラインを活用したさらなる広報手法の研究に期待します。

昨年度に続き2020年度も新型コロナウイルスの感染防止対策により多くの活動に影響がありました。ポストコロナでの回収・販売方法の構築や交流活動の実施等が継続の課題です。更なる創意工夫に期待しています。JFSAの活動の「価値」がさらに共感を得て広がる事が出来るよう、役員、職員、会員の皆様や団体会員・支援メンバーの皆様一丸となって活動計画の達成に邁進いたしましょう。

2021年11月8日
 監事 水谷 靖之
 熊谷 浩二



昨年度は残念ながらカルハナ事業は予算未達成でした。そこで改めて2020年度を振り返った時に、何か変化があった1年だったのだろうかと考えました。

コロナの真つただ中において、イベントや外売りに比重が大きすぎたのではないかと。作業を指示するという事に手いっぱいになってしまつて、商品の開発はできていたのか？

現地の縫製工房との連携はしっかりとできていたのか？

考え出すとキリがありません。そんな時に店内のBGMからポップディランが流れてきました。

「やらなきゃいけないことをやるだけさ」

彼のそんな歌詞があつたことを思い出したのです。カルハナ事業にとつて、やらなきゃいけないこととはなんだらう。まず手をつけたのは、商品の開発でした。現状では商品型数が少なく、商品の良し悪しや得意な縫製のパターンなどの十分なデータをとることができません。そのため、昨年度の後半からは新商品の開発に力を入れていきまし

た。新商品の作成依頼は縫製工房も今までに縫つたことがない服に挑戦してもらふことにもなります。様々なパターンの縫製をして、作業に慣れてもらふ。縫つた枚数と種類の多さでしか技術の向上は望めません。日々の作業を依頼する。製作する。日本で販売する。このルーティンを確認することが一つの目標となりました。



新商品のサンプルが出来上がると必ず着用写真を送ってください。(上：ナシームさん 下：アーディルさん)

アーディル氏をはじめ縫製工房のメンバーは、今まで縫つたことのないような難しいパターンの服でも、ためらわずに挑戦してくれていました。最近では、このカタチだったらこの生地が合うのではないかと、などと提案もしてくれています。

商品の開発は縫製工房のスタッフと同じように、日本で販売する私たちにとつても挑戦です。事業において変化を加えないこと、その場に立ち止まることは後退していることと同じです。時には失敗することもありますが、これは失敗だったねという経験を得ることができます。そう

して良いことも悪いこともひっくり返して様々なデータを蓄積して、持っている引き出しを増やす。その引き出しの中からより良い方向を明確にしていくしかないと思っています。

事業を継続していくために、販売成績や現地との意思疎通など、まだまだ課題は山積みです。やらなきゃいけないことをひとつひとつやっつけていくしかありません。

「だからうまくいくんだよ」そんな言葉を続けていました。

パキスタンへのコンテナ送り出し・到着報告

第75回コンテナ送り出し
●積み込み日：12月9日 ●積み込み重量：25,031KG
●横浜港出港：12月19日⇒カラチ港到着予定：2022年1月14日



ボランティアの皆さんと (JFSA千葉センター)



満載になったコンテナ
548個のペール(古着を梱包した塊)が入りました!

今年度はこれまで年間4回だった送り出しを1回増やし、5回送る計画を立てています。前回第74回を8月10日に実施して以降、約4カ月程間隔が空きました。計画ではもっと早く行う予定でしたが、コロナ禍によるコンテナ不足等に起因する海上運賃の高騰が10月に更にすすみ、コンテナの予約も取れない状況が発生し遅れてしまいました。

積み込みには25名のボランティアの協力がありました。選別協力団体や回収協力団体、軒先市の出店者の方の他、店舗のお客さんの20代の若者も数人参加し、コンテナの中の詰め込みに奮闘してくれました。

今回のコンテナは更なる海上運賃の上昇を受け、経費はコロナ禍前の約6倍になっています。AKBGの古着販売事業の利益減少が見込まれ、この状況にどう対処するかAKBGと協議をすすめていきます。

今回の送り出しには古着を出してくれた方が見学に来てくれました。その方とは去年の春頃に知り合ったのですが、実は千葉センターのすぐ近くの公立図書館に15年程前にお子さんと通っていて、その頃からセンターの存在も知っていたそうです。読書好きの方でパキスタンの子どもたちの本を読む機会について気にかけていました。タオルや服地等を15KG程出してきて、今回のコンテナにそれらを積むことになるのでお誘いをしたところ、実際に足を運んでくれました。古着を出した方が送り出しに立ち会うことは稀ですが、その方が出した15KGのように、コンテナいっぱい積み込んだ25,031KGの古着の原点には一人ひとり出した方とその思いがあることを感じました。

そして、私たちはアル・カイールアカデミーやJFSAの活動をみなさんにきちんとお伝えできているだろうか、呼び掛けに応じて古着を出してくれる方たちの思いを聞いているだろうか、みなさんの古着を十分に活かしているだろうか、と考えさせられます。

コロナ禍で対面で会う活動報告の機会は減りましたが、センターへの古着持ち込みの時や回収協力団体のセンターで行われる回収・選別企画、荷物の中に入れられたお手紙等を通して、生の声を聞けることがあります。そう言ったやり取りを重ねながら、古着を出す人、古着を購入する人、JFSA、AKBGが人と人の繋がる顔の見えるリサイクルをいっしょにつくっていききたいと思います。

(国内事業担当事務局 入江賢治)



2021年8月カラチに到着したコンテナの荷下ろしの様子